

《担当者名》○桑原ゆみ [yumi-k@hoku-iryo-u.ac.jp]
唐津ふさ [karatu23@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

高度実践看護師として、慢性病者・家族を支援する上で必要な、慢性病や障害を抱える人の体験、反応・行動の理解や支援に役立つ理論、モデルと、その適切な使用方法について学ぶ。

【学修目標】

1. 慢性病者・家族の病気体験の理解に役立つ理論、モデルを理解し、説明できる。
2. 急性状況に陥った慢性病者の反応、行動理解に役立つ理論、モデルを理解し、説明できる。
3. 慢性病者の行動変容、認識の変容、症状マネジメントに役立つ理論、モデルを理解し説明できる。
4. 慢性病者・家族のおかれた状況に応じて、適切な理論やモデルを選択することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	慢性病者・家族の体験、反応、行動の理解とケアに役立つ理論、モデルの概観	教科書をもとに、理論やモデルを概観する。 不確かさ理論を例に、理論の紹介（理論家、理論誕生の背景）研究の動向、理論の看護実践での活用と課題について講義する。	桑原 唐津
2	慢性病者の体験の理解、支援に役立つ理論、モデル	不確かさの理論	唐津
3 ） 4	慢性病者の体験の理解、支援に役立つ理論、モデル	病みの軌跡モデル	唐津
5 ） 6	慢性病者の体験の理解、支援に役立つ理論、モデル	セルフケア不足理論	唐津
7 ） 8	急性増悪で急性状況に陥った慢性病者の反応・行動の理解や支援に役立つ理論	ストレス・コーピング理論 危機理論	桑原
9 ） 10	慢性病者の行動変容に役立つ理論、モデル	自己効力感 変化のステージモデル	桑原
11 ） 12	慢性病者の症状管理に役立つ理論、モデル	症状マネジメント 不快症状理論	桑原
13 ） 14	慢性病者の認識の変容に役立つ理論、モデル	エンパワーメント アンドラゴジー	桑原
15	まとめ	慢性病者・家族のおかれた状況に応じて、適切な理論やモデルを選択することの必要性や理論適用の限界について検討する。	桑原 唐津

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション30%、準備・参加状況30%、課題レポート40%による評価。

【教科書】

野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論，第2版，メヂカルフレンド社，2016．

河口てる子編：慢性看護の患者教育 患者の行動変容につながる「看護の教育的関わりモデル」，メディカ出版，2018．

【参考書】

Ilene Morof Lubkin , Pamala D. Larsen(編集)黒江ゆり子監訳：クロニックイルネス(Chronic Illness: Impact And Interventions,5th),医学書院,2007．

ウグ編，黒江ゆり子他訳：慢性疾患の病みの軌跡，医学書院，1995．

日本慢性看護学会誌，特別号，10周年記念誌-慢性看護の知の体系化，2016．

【学修の準備】

事前に関連文献を読み、十分準備して臨むこと。

【学修方法】

1回目は教員が理論の学修方法を教授する．2回目以降は学生は関心のある概念や理論を選んで学修（理論の理解、文献検討により活用法を概観、さらに関連論文を一つ以上クリティーク、かつ、事例を作成して理論の活用を試みる）し、プレゼンテーション後に質疑応答・討議、教員による補足を経て理論の理解を深める。